



橋戸

令和8年2月27日
学校だより 第11号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木俊一

一年間の成長を次なる一步へ

校長 青木俊一

日ごとに暖かさを増し、校庭の草木も春の訪れを感じる季節となりました。保護者の皆様におかれましては、この一年間、本校の教育活動に温かなご理解・ご支援を賜り感謝いたします。

本年度も残すところ一ヶ月となりました。本校では「考える子」「思いやりのある子」「たくましい子」の三つの目標を掲げ、子供たちの育成に励んでまいりました。過日ご協力いただいたアンケート結果から見えてきた、子供たちの成長の姿と今後の課題について、皆様と共有しつつ一年を振り返りたいと思います。

第一に、「考える子」についてです。今年度は、どのお子様も安心して学べるよう、授業のユニバーサルデザイン化を推進してまいりました。アンケートでは、多くの子供たちが「授業がわかりやすい」と回答しており、個々が見通しをもって学習に集中できる環境づくりに一定の手応えを感じています。また、タブレット端末の活用も日常化してまいりましたが、今後はこれが真に学力向上や深い学びにつながっているか、その学習効果を精査し、さらなる授業改善に繋げていく必要性を感じています。

第二に、「思いやりのある子」についてです。アンケートからは、多くの子供たちが安心感をもって登校できている様子が伺えます。自分の困りごとに向き合うだけでなく、困っている友達に対して自然に手を差し伸べ、他者の喜びを自分のことのように喜べる姿が見られるようになったことは、本校の大きな誇りです。一方で、保護者の皆様からは「学校は困ったときに相談しやすい」の問いに懐疑的な結果も浮き彫りになりました。子供の健やかな成長のためには、学校と家庭が「補い合い、助け合う」関係性が欠かせません。より開かれた、温かな関係づくりに努めてまいります。

第三に、「たくましい子」についてです。休み時間、校庭を元気に走り回る子供たちの姿は、運動習慣が着実に身に付いていることを示しています。しかし、生活リズムについては、ご家庭から不安の声も寄せられております。規則正しい生活は「たくましい体」の基盤です。今後は学校からも、より良い習慣作りに向けた意図的・継続的な取組を提案し、家庭との相互理解を深めながら、子供たちの自己管理能力を育てていきたいと考えております。

この一年間、子供たちは「自分の考えをもち、他者と協働する」ことの難しさと喜びを学びました。3月は、その過程を振り返り、自信を深める大切な時期です。6年生は卒業を、在校生は進級を控え、期待と不安が入り混じる時期でもありますが、子供たちが確かな足取りで次なる一步を踏み出せるよう、職員一同最後まで子供たち一人一人に寄り添い尽力してまいります。

今後とも、変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げ、今年度の締めくくりのご挨拶とさせていただきます。